

ましたが、日本の飛行機は1機も飛ばなかった。

今まで負けたことのない日本、心の中では勝つと思っていましたが、食べるものはない、着るものもない、まちは焼かれる、こんなことで戦争に勝てるのかと思ったこともありました。

戦時中も大阪市内から買出しに来ました。

金で買う人もあれば、物々交換もありました。

じゃが芋などの食物が多かったですが、米だと1升か2升、それとわからないように腹にまいて帰って行きましたよ。

肥料は配給制度でした。

8月6日にアメリカ軍が特殊爆弾を落とすと聞きました。

それが原子爆弾と呼ばれるものであることを知ったのは後のことでした。

8月14日、仁和寺の一つ年上の知り合いが出征することになりました。

和歌山に入隊するというので、私は送っていきましたが、その帰り、大阪市内は昼間の大空襲のあと、まだ燻り続け煙が上がっていました。

京阪電車の京橋駅も焼けていて、線路伝いに関目まで歩きそこから電車に乗って帰りました。

8月15日はラジオで玉音放送を聞きました。

何もわからないまま直立不動の姿勢でいましたが、ただ1人だけわかった人がいて、戦争が終わったことを知りました。

16日は会社でも全員が集められ、戦争が終わったと聞かされました。

私の家族は5人きょうだいで、長男の兄は飛行機乗りでミンダナオ島で戦死しました。

※早魘＝かんばつ

※もっこ＝むしろ又は縄や竹を網のように編んだもので四隅に綱をつけ、土や肥料などを盛って運ぶ道具

